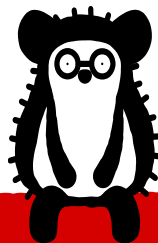


朝日新聞



8月のおすすめ



第104回 全国高校野球選手権大会
主催/朝日新聞社・日本高校野球連盟
後援/毎日新聞社 特別協力/阪神甲子園球場

観戦記復活 球児の熱い夏、伝えます

第104回全国高校野球選手権大会が8月6日、開幕します。俳優、作家ら各界で活躍する方を阪神甲子園球場でインタビューする「甲子園観戦記」が3年ぶりに復活します。勝負のあやを切り取るハイライト「球音」などとともに球児の夏を熱くお伝えします。

The Asahi Shimbun
GLOBE



国家とは… 小さな国々で考えた

国とは何か。南太平洋のサンゴ礁の島国ニウエ、イタリアの国土の中にあるサンマリノ、領土を持たない不思議な国マルタ騎士団……。GLOBE 8月21日号では、編集部の記者が世界の一風変わった小さな国々に飛び、その国で暮らす人々取材しました。

戦後77年 揺らぐ平和観



ロシアによるウクライナ侵攻下で戦後77年の8月15日を迎えます。核兵器をもつ大国が公然と隣国を侵略する異例の事態は、第2次世界大戦後、日本社会が築き上げてきた平和観や戦争観をゆらがせています。ゆらぎの現場を訪ね、考えるシリーズを始めます。

お申し込みはこちら

QRコードを読み込んでアクセス

お電話からのお問い合わせ

7日間
無料お試し



ご購入



☎ 0120-33-0843

ウェブページからアクセス

お電話での受付は午前7時～午後9時。
配達手続きまで、お時間がかかる場合がございます。
ご了承ください。

→ [7日間無料お試し](#)

→ [ご購入](#)

※紙面予定はニュースの発生などにより、変更になる場合があります



AIが生成した短歌を見てほほえむ俵万智さん（朝日新聞記者）

朝日新聞 最近の 注目記事



AI × 短歌 ハッとする出会い

7月6日 1面、文化面

伝統ある短歌の世界に、AI（人工知能）はどんな影響をもたらすのか——。ベストセラー歌集「サラダ記念日」などで知られる歌人の俵万智さんに、朝日新聞社が開発した短歌を生成するAIを体験してもらいました。AIと創作の未来について、取材する側もいろいろ考えさせられる企画になりました。

詠むAI 俵万智さんと考える



新しい時代の短歌を切り開いてきた歌人と、短歌をつくるAI（人工知能）とが出会ったら、何が起るのか。ベストセラー歌集「サラダ記念日」などを知られる俵万智さん（59）が今年3月、東京・築地の朝日新聞東京本社内で向き合ったのは、その「サラダ記念日」をはじめとする俵さんの6冊の歌集を学習させた「万智さんAI」だ。三十一文字から成る短歌の「七・五・七・五の「上の句」を入れ替えて、俵さんの「文法」を学ばせて、「AIは様々な短歌を無数に生成する。パソコンの画面上に表示された無数の短歌のうち、ある一首に目を止めた俵さんは「これ、うまくないかい。新しい風を吹き込んだ

取材した
記者
佐々波 幸子
文化部



「AIに短歌を詠ませるなんて邪道では」と当初思っていましたが、「よりよい表現を模索する相棒になりそう」という俵万智さんの言葉にハッとしました。創作を刺激し、短歌の本質を照らすものとして見てきたAIとの関わり方を、今後も探っていきたいです。

耐えがたい「リノベ騒音」

6月16日 生活面

高齢化するマンション「コロンビア」騒音

築50年「リノベの波」騒音、今日も

暮らし考

「工事現場で寝る」といふ苦しみは、築50年超えのマンション「コロンビア」の住民にとって、毎日の生活の一部となっている。騒音や振動に苦しめられているという声も。住民や仕事を注文する人にできることはあるのでしょうか。探りました。

耐え忍ぶ住民「気持ちよく受け入れられない」

業者任せにせず 丁寧な説明が生む「お互い様」

「高層化するマンション」コミュニティ開発、次は28日に掲載予定です。11月16日、17日は別日に掲載しました。依頼のご要望をお知らせください。平日（朝） 朝日新聞暮らし編集部「暮らし考」欄。メール：seikatsu@asahi.com。

マンション価格が高騰するなか、中古物件を改修する「リノベーション」が人気です。同時に3軒で工事が進行中というあるマンションでは、ひどい騒音や振動に苦しめられているという声も。住民や仕事を注文する人にできることはあるのでしょうか。探りました。

取材した
記者
石川 春菜
暮らし報道部



「暮らし考・高齢化するマンション」シリーズでは、建物も住民も高齢化するなかで起こる問題を取り上げてきました。この記事のように、読者の投稿をきっかけに取材することも多いです。安心して暮らし続けられる住まいとは何か、引き続き考えていきます。